



コロナ禍が始まって早や1年、世の中は一変し、ニューノーマルが囁かれる。その間に、世界も大きく揺れ動き日本の立ち位置が大きく問われている激動の時代。我がふるさと七尾市にも新市長が誕生し、新たな時代を迎えている。思い起こせば、今から19年前に武元文平前市長の声かけで誕生した関東七尾の会も、その後の不嶋前市長、そして今回茶谷新市長に引き継がれ、その関係をより発展させ、新たな展開へと飛躍することを期待したい。



新市長からのメッセージ 七尾市長 茶谷 義隆 (2021.1.1拝受)

新年あけましておめでとうございます。昨年、七尾市民の信任を得て七尾市長に就任しました茶谷義隆でございます。関東七尾の会の会員の皆様方には、平素よりふるさとへの温かいご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

七尾市も少子高齢化や人口減少が喫緊の課題となっておりますが、住民票を有しなくても交流人口※1は勿論、関係人口※2としての皆様方の存在には、大きな意味があります。七尾市がワンチームとなる為、皆様方のお力添えをいただきながら、地域未来に向けてしっかりと舵取りを行っていく所存です。

昨年は、新型コロナウイルスの感染問題で帰省を制限され、寂しい思いをされた方も多かったと思いますが、コロナが収束した後は、是非ふるさとへ足を運んでいただき、明るい未来に向けた新しい能登七尾を感じていただけたらと思います。

皆さまにとって幸多き一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。



※1 交流人口…地域との関係性は弱いが、観光や物販等でその地域に触れたことのある人。

※2 関係人口…ももとの出身者や、縁戚者、何かしら仕事で関わる機会がある人。



「啐啄同時」を目指して 会長 島田 安夫

図らずも静かな年末年始となり、皆様におかれましては、

いかがお過ごしでしたでしょうか。

コロナが世界中を席卷する深刻な事態、しかも余りにも身近過ぎて誰もが不安に苛まれる状況が既に1年も続き、感染拡大の勢いは止まらず、ワクチン開発報道ですら霞んでしまう程です。

我々の活動も今の状態では再開すら覚束ない、そんな暗澹たる気持ちを何とか振り払うべく、企画したWEB会議。9月、10月(同封新聞記事参照)と試み、市内に15ある「地域づくり協議会」の存在をただだけでなく、その活動内容は非常に興味深く、七尾の活性化、発展に大いに期待を抱かせるものでした。3回目の12月には茶谷新市長にもご登場をお願いでき、我々の活動へのヒントを与えて頂くなど、有意義な交流の場になり、大変感謝申し上げます。

「啐啄(ツツク)同時」とは、鶏の雛が孵る時に卵の殻の中から突く音に呼応し、親鳥が殻を破る「阿吽の呼吸」を表す言葉ですが、ふるさと会も「郷土の発展」を目標に掲げるのであれば、地元の動きや求めに呼応した活動を目指してこそ、存在意義が生まれるのではないのでしょうか。皆が集うことが難しいという時期こそ、ふるさとの為にできることを考える好機とし、七尾市や地元の皆さんとの連携を深め、情報共有を図るべきなのかもしれません。

ふるさとを想う気持ちを行動に、まずは身の回りに人に語る筈から始めてみようではありませんか。

出会で繋がる社会 幹事長 木下嘉平

世界を席卷する新型コロナ、100年に一度と言われる感染症！最初はぎこちなかったマスク着用も次第に慣れ、今では“新しい日常”とし



て定着！人類共通の災禍に直面した2020年も終わり、新しい1年が始まった。

「人の縁とは不思議なもので、必要な時に必要な人と会うぞだ、それは一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないその時に」と言われるが、正にその通りだと思う。また、「人の出会いに偶然はなく、すべてが必然である」とも言われる。当会は皆様方との出会いの縁で繋がっております。会則の「会員相互の親睦を図ると共に郷土の発展に寄与する事を目的とする」意に沿いコロナ禍でも活動を進めたく考えております。昨今言われる「サステナブル(持続可能)な社会」、それは、地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活を続けていける社会です。ふる里もそうありたいものです。当会会員約千名、その数だけ人生で培った豊富な情報、経験値、見識等が潜在しております。

ふる里の発展を願うご意見等を事務局までお寄せ下さい。

皆様のご多幸をご祈念申し上げます。(中島町北免田出身)

ずっとみんなで行動する 事務局長 柿島由雄

あけましておめでとうございます。コロナ感染拡大により未曾有の困難が生じている時期は、私たち全員が一致団結して、持続可能で包摂的な社会を作る努力が必要です。当会では、地元とのオンライン情報交換会を通してふるさと七尾の発展のために、具体的に何ができるのかを考えています。



グローバル化やデジタル化により、知識・データやそれを活用した新しいサービスが重要視される知識集約型社会へと変わりつつあります。当会には、様々な経験、技術や人脈をお持ちの会員の方が大勢いらっしゃいます。もはや、地方であることのハンディはなく、創造性と多様性、そして怒涛の行動力で明るい未来を築くことは可能です。

まずは、コロナの状況に応じた手段(オンライン、郵便、メール、対面)でテーマ毎にグループで自由発想する機会を(ブレインストーミング)を設け、みんなで現実的な課題と解決策を議論し、具体的な行動へと繋げたいと思います。私たちの七尾の発展の為に、前を向いて、みんなで進みましょう。

高階

～世界2周してたどり着いた能登半島七尾という地～

たかしな地区活性化協議会 任田 和真(とうだ かずま)

集落の教科書

石川県七尾市高階地区



高いことも、そうでないことも、ちやみと伝えたい

みなさまあけましておめでとうございます！高階(たかしな)地区にて地域おこし協力隊をしている任田和真と申します。私は小松市で生まれ、不自由なく平凡な生活を送っていたのですが、7歳のころに母を亡くした経験から「人生は一度きり、後悔の無いように生きたい」という衝動にかられ、大学卒業後に、世界二周53か国を放浪することとなり、自然と多様な土地での文化や価値観に触れることができました。そして、パートナーとの結婚を機に子育ての理想の地としてご縁あったのが、能登半島七尾市です。



私が活動している高階地区は人口約1,000人の農村集落。地元の方々は「なんもないとこや」と口を揃えてそう言います。しかし今も昔も変わらない日本の原風景が残り、サークル活動や地域行事が活発で外交的な地域コミュニティがあることから移住者の受け入れを積極的に行っている地域です。そんな“なんもないまち”のまちおこしをするため、廃校となった旧高階小学校を舞台に人気テレビ企画「逃走中」を模した大規模おにごっこを企画したり、地域内の若い世代を対象に廃校でピアガーデンを開催したり、最近ではコロナ禍でも安心して映画鑑賞が楽しめる「ドライブインシアター」の企画も実施しました。また、地域をあけて移住を受入れる環境を整える為、地域のルールや慣習、しきたりを明文化した「集落の教科書」を編集長として発行する等の様々な取り組みが功を奏し、ここ5年間で県内外から16組29名の方が高階に移住しています。

関東七尾の会の皆様とは、先日オンライン情報交換会にて初めてご縁を頂き、その際、島田会長を始めとする会員の皆様より叱咤激励を頂けたことが大変励みになっております。コロナ禍での今後の地域づくりは、過去の概念や価値観に縛られない創造的なアイデアや、その為の新たなネットワーク形成が必要不可欠となります。ふるさとを愛する会員の皆様には、引き続き温かいご支援とご教授を頂ければ幸いです。それでは皆様くれぐれもご自愛ください。本年もよろしくお願い致します。

中島

～『農泊推進事業』で地域おこし推進～

中島地区地域づくり協議会 白畑 直樹

新年あけましておめでとうございます。今年度も何卒よろしくお願い申し上げます。昨年5月より地域おこし協力隊として移住・着任しました白畑直樹と申します。以後お見知りおきのほど宜しくお願い致します。



中島町の現状は、世の中の過疎地と同じく少子高齢化が進み生産年齢が高くなっており、年々空き家も増え続け、後継者不足により商産業も衰退しています。しかし、本当に問題なのは住民の危機感の無さだと感じました。現状でもやや不便ではあるものの、普通の生活に困窮している訳ではなく、危機感を感じている住民はほんのひと握りです。誰かが何らかの行動を起こさなければ中島町の将来はないと思い、農水省が推奨する『農泊推進事業※』を提案し地域づくり協議会で実施する事になりました。(※いわゆる農家民宿等とは違い『泊・食・遊』の3つの事業を行うことで、地域の資源を有効活用し「ヒト」と「カネ」を循環させ町に活気を取り戻すプロジェクトです。)

市長のコメントにもありますように、昨今『関係人口』が地域創生のカギを握ると言われています。その関係人口を増加させるには交流人口を増やさなければなりません。その為にはまずは観光事業に力を入れ足を運んでもらうしかないと考えます。そして、住民の意識を変えるには説得ではなく、環境を変え小さな成功体験を経験させ続ける事だと思えます。町に多くの人が訪れ賑やかになれば、住民の意識も変化していきます。まずは観光事業から始め関連する事業も地域で行い、行政に依存する事のない地域を目指します！そして若い世代が中島町に魅力を感じ帰ってくる為の土台作りを行います。

このプロジェクトの成功には関東七尾の会の皆様のご協力も不可欠です。未来を見据えた中島町のチャレンジにご理解とご協力、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。皆様にとって良き一年になりますようお祈り申し上げます。

30年～も持続可能な存在価値のある町になるために...

移住促進

観光事業

まずは、観光から！
2021年度、中島町は観光事業に着手します！

宿泊施設×2棟

レストラン×1棟

体験コンテンツ

ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

能登島

～「能登島 未来への誓い」～

能登島地域づくり協議会 菊地 明暢



新年明けましておめでとうございます。能登島地域づくり協議会で事務局をしております菊地明暢と申します。昨年中は関東七尾の会の皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。昨年は先が予測できないコロナ禍の中、地域づくりに関するこれまでの考え方・やり方が役に立たず、「地域づくりとは何か？」を改めて強く考えさせられた1年間でした。

能登島地域づくり協議会では、平成28年度に協議会委員や部会のメンバーが中心になって、地域の目指す姿を示した将来ビジョン「能登島 未来への誓い」と具体的な行動項目「アクションプラン」を作成しました。ビジョンには「島の恵を味わい続ける」「島の絆を深める」「能登島の暮らしを自慢する」という3つの項目があり、これを目指して住民主体で持続可能な地域づくりを進めるため、コミュニティビジネスの手法に学んだ取り組みを行っています。

例えば、「夏休みのとじま子どもキャンプ」は金沢や首都圏の小学生が能登島のキャンプ場や民宿でホームステイをしながら海遊びや集落歩きなど様々な体験をする交流事業です。2泊3日でのびのびと島の自然の中で過ごすキャンプは人気で、リピーターを中心に毎年20名以上の小学生が参加しています。

このような地域の魅力を体験できる取組をさらに進めるため、令和元年6月に協議会の事業部門として一般社団法人のと島クラシカタ研究所」を設立しました。地域限定旅行業免許を取得して体験ツアーを自主販売できる体制を整えたほか、新たに立ち上げた地域ブランド「能登島まあい」商品の販売や、ホームページでの情報発信を行っています。

以上のようなコミュニティビジネス事業を進めて経営的な基盤強化を図りながら、地域の福祉や防災といった非営利的な足元の課題にも日々取り組んでいます。今年もまだパンデミックは続いていますが、新しい日常において地域で出来ることを精一杯頑張りたいと思います。



◇ 関東地区在住の七尾出身者及び七尾と関わりのある方が集い、「会員相互の親睦」と「郷土の発展への寄与」を目的に創立、一昨年15周年を迎えています。現在会員は約千名、県人会や各ふるさと会との交流等各種活動を続けています。

関東七尾の会

名誉会長：武元 勇 会長：島田安夫
幹事長：木下嘉平 事務局長：柿島由雄

事務局：☎338-0013 さいたま市中央区鈴谷7-6-1-912 島田安夫宅
(柿島事務局長) 携帯080-5548-7714 ✉ kakitomo@wave.plala.or.jp
(事務局/島田) 携帯090-4076-2101 ✉ saita-shi-mada@mist.ocn.ne.jp